

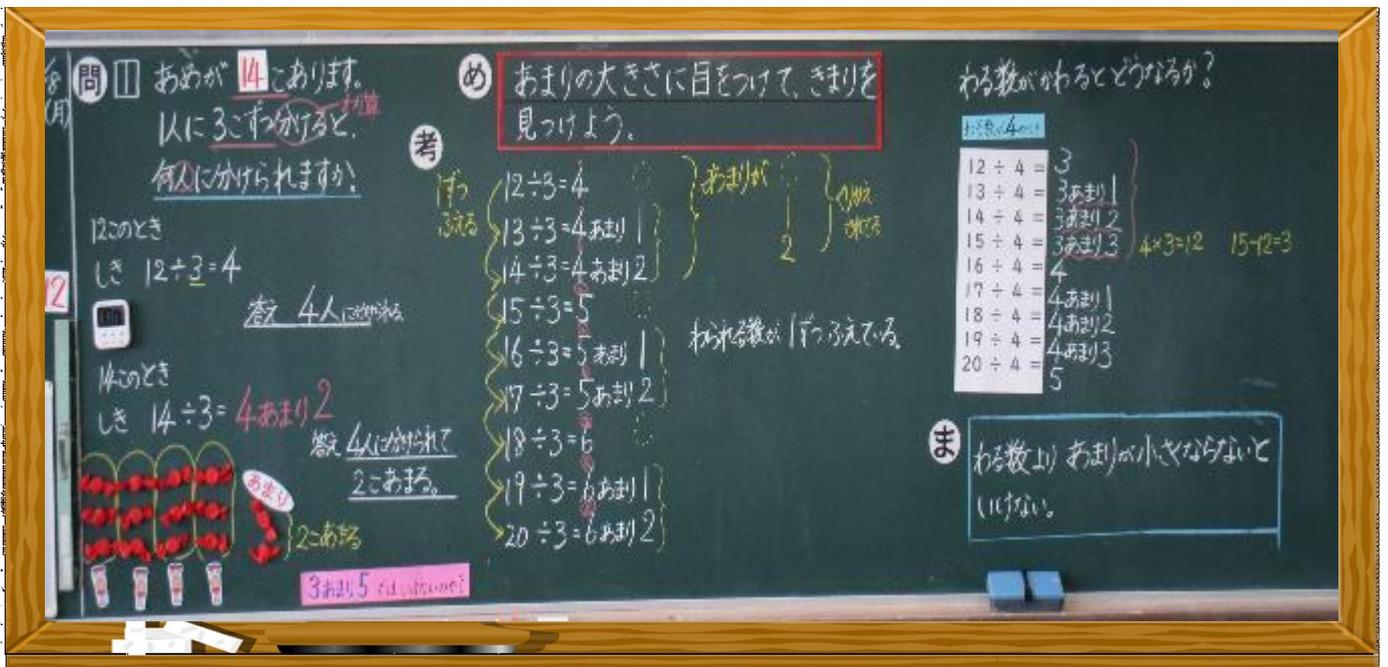
# 授業者も！参加者も！学ぶ!!高まる!!広げる!! 西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ



平成30年7月4日(水)  
西部教育事務所

6月18日(月)に入野小学校において、授業研究会が行われました。前回の教材研究会での学びの具現化をめざし、教材研究会の後も何度も指導案検討を繰り返して望んだ授業研究会でした。

今回は月曜日の開催ということもあり振休の学校もあったようですが、黒潮町以外の学校からも、自ら学ぶ機会を求めて参加してくれている先生方の姿も見られました。



## 今回の授業

黒潮町立入野小学校 3年「あまりのあるわり算」 乾教諭

あまりのあるわり算において、「あまりの意味を知ることとはどういうことなのか」を明確にしていくために、あまりの大きさに着目させ、あまりの規則性を見つけさせるといった活動を位置付けた授業でした。

教科書通りの単元構成であれば、3時間扱いの内容であるが、その内容を1時間で取り扱うといった授業構成を考え、果敢にチャレンジした実践でした。



## 授業者の声

今回、提案授業をさせてもらったことで、「あまりの意味を知る」ということがどういうことなのかを学ぶことができました。しかし、児童の実態にあった授業内容を考える事が不十分であったので、児童の多くが「あまりの意味を知る」ということの意味ができていないまま授業を進めてしまいました。また、アレイ図を使い、2年生までの既習を活用して、除数とあまりの関係性に着目できるように授業を構成していくことが大切だということがわかりました。

付けたい力を明確にして、既習事項や次学年への関連性なども考え、授業で扱うべきことをしっかりと把握しておくことが大切であることも学びました。



## 参会者の声

除数とあまりの関係について気付かせるために、除数を変えて示すことで比較する事ができ、より深い理解につながっていくということを学びました。先進的な授業や代案を提案していただいたことで、授業づくりにおける見方も変わってきました。

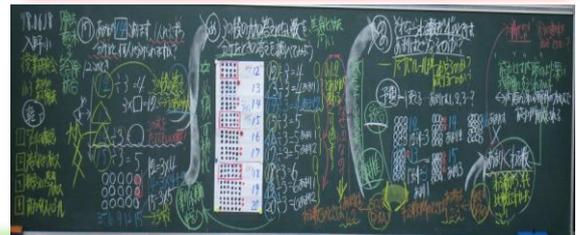
また、あまりのあるわり算の単元に、これから入る予定なので、アレイ図を用いて思考させて行きたいと思っています。

(黒潮町外 A教諭)

## 参会者の声

自分も今、同じ3年生の担任をしていて、あまりのあるわり算について学習しているところである。アレイ図などを用いるなどし、子どもたちに視覚的に捉えさせるなどの工夫をしながら、授業を展開していきたい。

(黒潮町外 B教諭)



齋藤先生からは、「あまりの意味を知ることはどういうことか」を明確にするということで、以下のような指導（一部抜粋）をしていただきました。

### (1) 定式化のプロセス

- めあてを『3の段の九九の答えにない数を分けたときの答えを調べてみよう』といったように問いの焦点化を図り、式だけでは抽象的すぎて理解ができない子どももいるので、アレイ図を使って視覚化を図る。あまりの規則性（わる数3の時は、あまりが1・2）を見出す。

### (2) 数学らしい思考プロセス

- 『わる数が4のときは、あまりはどうなるのか?』と類推させ、3で割った時と同じような決まりが成り立つのか（わる数4の時は、あまりが1・2・3になるのか?）を問い、アレイ図を使って、確かめさせる。

### (3) 能力ベースのゴール

- 内容をより深く理解していこうとするプロセスの中で能力は身についてくる。あまりの数がわる数よりも小さくなるということを一般化して、より確かなものとして理解していこうとするプロセスの中で、子どもたちは無意識のうちに統合的な物事の見方をして比較してまとめてみようとする。また、あまりと除数の関係をもう一度考えようとするプロセスの中で類推という能力を知らず知らずのうちに子どもは体得している。

## 「7・8月の学び場」のお知らせ

7月31日(火) 大方中教材研究会(AM)

8月28日(火) 清水中教材研究会(AM)

8月29日(水) 中村中教材研究会(PM)

8月30日(木) 具同小教材研究会(PM)

7月31日(火) 入野小教材研究会(PM)

8月28日(火) 清水小教材研究会(PM)

8月30日(木) 片島中教材研究会(AM)

8月31日(金) 大方中授業研究会(PM)